

## 古都の雪

赤いから傘 雪降るまち  
少ない訪れる人  
焦茶色の木造の間  
着物で歩く後ろ姿みえる

随分前の儂い記憶突然  
よみがえり苦しくなる  
二十歳を過ぎた時  
別れたばかりのこと  
鮮明に思い出す  
昨日のことのよう

積もらない雪それでも激しく  
冷たい風に吹かれて  
焦茶色の木造の下  
竹やらいがこの目に染みる

随分前の儂い記憶突然  
よみがえり苦しくなる  
あの時このように  
一人で歩いた道  
はっきり思い出す  
昨日のことのよう